

品川区精神保健福祉家族会

かもめ会だより

□一月の精神家族勉強会にご参加ください

一月の荏原保健センター主催の精神家族勉強会は、

日時 1月8日(水)13時30分より15時30分頃まで(その後にかもめ会懇談会を予定)

会場 荏原保健センター 2階 多目的室 品川区荏原2-9-6

題名 社会資源について2

講師 就労継続支援B型シャロームの家 ピアスタッフ 堀合悠一郎さん

堀合さんの紹介

1978年東京都東村山市生まれ。小中学校を兵庫県で、高校時代を大分県で過ごす。高校卒業と同時に統合失調症の治療を開始。精神科デイケア利用を経て、2008年より横浜市磯子区に拠点を置く特定非営利法人さざなみ会が運営する地域活動支援センターシャロームの家に通所。2013年より同シャロームの家に職員として勤務。2015年よりYPS横浜のピアスタッフ協会の活動に関わる。2019年3月に品川区内で開催されたシンポジウム『当事者と家族が語る「地域参加」』に堀利和氏、佐藤諦吉氏、庄田洋と共にシンポジストを務める。趣味は語学と美術。マーク・ロスコの絵画、尾形光琳の燕子花図に目が無い。体調管理の秘訣はウォーキング。

皆様のご参加をお待ちしています。

参加希望の方は、荏原保健センター☎3788-7016までお電話ください。

□みんなで歌おうかもめ会が12月8日に合唱をしました♪♪

12月8日(日)午後の障害者週間記念行事に参加し大井町きゅりあんのステージで「みんなで歌おうかもめ会」が合唱しました。年輪の会の方々にも多数加わっていただき13人でONE TEAMとなり舞台上に立ちました。司会と指揮は役員の高橋和子さん、ピアノ伴奏はかもめ第3工房の勝俣伸吾さんでした。
●故郷(ふるさと) ●四季の歌 ●幸せなら手をたたこうの3曲を会場の皆さんと共に500枚用意した歌詞カードを参考にしていただきながらみんなで歌い、歌声は大ホールに響きました！ふるさとを聴いて「ジーン」となった等たいそうな評判でした！



□障害のある子の「親なきあと」講演会においでください

- 題名 障害のある子の「親なきあと」～「親あるあいだ」の準備（チラシを同封）
- 日時 2020年2月1日（土）13時30分～15時に講演、15時～15時30分質疑応答
- 会場 品川区障害児者総合支援施設 B1 多目的ホール（品川区南品川3-7-7）
昨年10月に開設した施設で京浜急行線鮫洲駅より海側に徒歩6分（チラシ裏に地図有）
- 講師 渡部 伸先生
「親なきあと」相談室主宰、渡部行政書士・社労士事務所代表。1961年、福島県会津若松市生まれ。2014年知的障害や精神障害の子どもをもつ親の悩みに寄り添い、ともに考えるため「親なきあと」相談室を開設。現在は日本全国での講演や執筆など幅広く活動している。
- 内容 いくつか訪れる「親なきあと」我が子がお金に困らないか、日常生活のサポートはどうするか、保護者の心配は尽きません。「それでも『なんとかなるさ』と伝えたい」と、ご自身も障害のある子の父親である渡部先生はおっしゃいます。
親なきあと、子供が地域で安心して暮らせるよう、今親ができる具体的な対策について、障害年金の支給等、新たな情報も交えてお話を伺います。
- 主催 品川区障害者七団体協議会 後援 品川区 品川区社会福祉協議会（共に申請中）

□2019年11月13日に開催された精神保健家族勉強会の報告

今年度4回目の家族勉強会です。今回のテーマは「医療について」で、参加者は15名でした。講師は、しながわ在宅クリニック功刀賢院長でした。

前半は功刀院長にお持ちいただいた資料もとに「医療について」という題で主に「治療継続の必要性」「新しい薬」「似ている病気」を説明していただきました。

薬は飲んでいて期間しか効かず、症状が治まった等を理由として中断してしまうと再発のリスクが高くなります。再発は繰り返すと、回復の程度が下がったり自傷他害のリスクが増えたり、家族や周囲の負担が増えたりなど影響が出てきます。「いつもと違うこと」が再発のサインとなります。

新薬として、「レキサルティ」や「ロナセンテープ」などの紹介がありました。新薬は一般的に副作用が少ないですが、個人差があるため、主治医と相談の上で変更が必要です。また服薬支援ロボットという、服薬時間になると1回分の薬を出してくれる機械もあります。

似ている病気では、初診で統合失調症だとしても実際は発達障害だった事例などが挙げられました。症状として共通点があったり、疾患の基準が昔と今で異なったりしているため起きるそうです。定期的に欠かさず通院して、本人だけでなく家族も一緒に同行受診して医師に説明するなどが大切です。

後半は質疑応答のまま参加者間での情報交換を行いました。薬についての質問が多く寄せられ、終了後、参加者に記入していただいたアンケートでは、減薬の難しさが聞けてよかった、薬の個性や副作用の事を勉強できてよかったなどの意見があがりました。

（荏原保健センター心理担当 黒川真奈未様より寄稿）